



豊岡中心部では北但大震災（1925年（大正14年））からの復興期に建築された鉄筋コンクリート造（RC造）建築物や木造防火建築物の多くが町並みとして残っており、北但大震災の2年前に発災した関東大震災後の復興遺産の多くが消失したことを踏まえると、希少性が高く、震災からの復興を今でもよく伝える重要な遺産である。

ストーリー

17世紀末期	豊岡城下町	陣屋を中心とした内郭と円山川沿いに延びる町家で構成
明治～大正時代	大豊岡構想	1909年（明治42）に豊岡駅が設置され、円山川治水、丹但鉄道（現京都丹後鉄道）建設、耕地整理法を活用した市街地整備等のインフラ整備等、1921年（大正10）から現在の都市の骨格となる耕地整理の事業に着手
1925年5月23日	北但大震災	円山川右岸下流部を震源とするM6.8の地震が発生。豊岡町総戸数2,178のうち被害戸数1,887（全壊234、半壊171、焼失993、破損489）
1925年～1936年	震災復興期	従前の耕地整理事業を継承しつつ、道路拡幅やシビックセンターの整備、耐火建築物（RC造）の推進など都市の防火性能の向上を図った
2000年代		旧豊岡町役場庁舎の取り壊しが議論となり、「復興建築（群）」に注目が集まる。
2010年代		豊岡震災復興建築群調査の実施
近年		「北但大震災からの復興を今に伝える「豊岡震災復興遺産」」を景観条例に基づく景観遺産に登録
2024年		旧豊岡町役場庁舎、旧兵庫縣農工銀行豊岡支店、佐藤家及び西村家住宅、旧5軒長屋、大開通南側長屋、鈴木家住宅、河見家住宅、旧豊岡貯蓄銀行の8件



④ 服部本社

昭和2年に建てられたRC造2階建ての事務所。軒下のコーニスや浮彫模様が施されたバルコニーが特徴的



③ 橋本結納店

昭和初期に建てられたRC造2階建ての店舗。窓の間に立てられた間柱は断面形状がテーパースされており特徴的

豊岡市中央町、千代田町、元町、小田井町

登録する景観の構成要素

こうじゅ舎（旧中源商店）、衣川クリーニング店、橋本結納店、服部本社、つるやからなる北但大震災からの復興で整備された防火性を高めた建造物群が構成する景観とそのストーリー



② 衣川クリーニング店

宵田通に面して営業するRC造3階建ての靴のクリーニング店。3連の開き窓や細やかにデザインされた装飾が特徴的



① こうじゅ舎（旧中源商店）

昭和初期に建てられたRC造3階建ての建築物。現在は事務所として利用されており、巻物風のモチーフが特徴的



⑤ つるや

昭和初期に建てられたRC造3階建ての店舗。鶴をモチーフとし、SK（山陰金融の頭文字）を付したメダリオンを配している

豊岡市役所

大開通り

生田通り

豊岡市立豊岡小学校

宵田通り

←至JR豊岡駅

